

社団法人 上田高等学校同窓会

同窓会報

創刊号

昭和39年4月5日発行
編集者 竹内敬太郎
発行所 社団法人 上田高等学校同窓会
印刷所 上田市新参町 中沢活版所

御礼の御挨拶

上田高等学校同窓会理事長 金子行徳

発刊の辞

同窓会報の発刊は、同窓会が創設された当時から、非常に希望され、幾度か提案も計画もされましたが、結局昭和二十三年三月に第一号、その秋に第二号が出されただけで資金その他の関係でこれを続けることは出来ず、遂に今日に及びました。しかるに此の度の同窓会館の建設に伴いこれを運営したり、会員相互の連絡と、母校の発展に寄与するためにはどうしても会報を発行しなければならぬとなりました。

六十周年記念事業完成の謝辞

上田高等学校創立六十周年
記念事業期成同盟会長
勝 俣 稔

桜花爛漫の候、同窓会員各位
愈々御健勝の程大慶に存じ上げ
ます。
顧みれば昭和三十二年夏より
計画した上田高等学校創立六十
周年記念事業は五島慶太氏を会
長に、昭和三十三年同窓会、学
校PTAの協力の下に発足し、
同窓会名簿の作成、校名改称、
同窓会館の建設を公約として計
画されました。
然るに昭和三十四年八月五島
会長が逝去され、小生がその後
任に推挙されました。この年の
夏県下を襲った台風があったた
め記念事業の募金を一年延期す
るよう期成同盟会の役員にお願
い申し上げましたので、やゝ事
業が停滞致しました。

然し昭和三十五年五月に六十
周年記念祝賀式を挙行し、同窓
会名簿を発行し、之を寄附者全
員に寄贈することになり、募金
は順調に運び、茲に立派な同窓
会館の建築が竣工しましたこと
は御同慶に堪えません。
六十周年記念事業期成同盟会
は三公約を完全に実現しました
ので、四月末日を以て解散致し
ますが、寄附者御一同様には上
田高校の校歌、応援歌を吹きこ
んだソーシートと募金者芳名簿
等を御送り申し上げて感謝の意
を表します。
最後に本会に好意をよせられ
た各位の御健康と御発展を祈り
感謝の言葉と致します。

上田高等学校同窓会が、同校
創立六十周年記念に際し、学校
PTAと一緒に、記念事
業期成同盟会を作り、その会長
には五島慶太氏を推挙し、その
記念事業として
一、校名改称
二、同窓会名簿発行
三、同窓会館建設
の三つの計画を立て、着々遂行
して参りましたところ、不幸に
も同氏が急逝せられ後任には勝
俣稔氏を選出しましたが、たま
たま同窓会長の水野鼎蔵氏が辞
任され、その後任に私を選出し
ました。私は全く寝耳に水なの
で再三辞退いたしました。諸般
の状態で、引受けざるを得なく
なつたのであります。そこで勝
俣氏その他の諸氏とも相談いた
し、同窓会を社団法人とするこ
と、又同窓会館竣工後の運営
は、学校長と同窓会長に委託す
るといふ条件にて県に寄附する
という内諾を得てその手続きを
始め、敷地の使用者の農林省と
所有者の大蔵省に買入れの交渉
をはじめると同時に寄附金の募
集に着手しました。募金は台風

のため一時停滞しましたが役
員、事務局の努力により、次第
に目標額に達しましたので、地
元建設業者と折衝の末昨年五月
漸く東信土建株式会社と請負わ
せ、本年二月十五日建物会同窓
社より引渡しを受け、県に寄附
致しました。
此の様にして当初計画をたて
た校名改称、名簿の刊行はさき
にすみ、今こゝに会館が落成し
たのであります。これは全く
会員並びに篤志者の御協力の賜
と厚く御礼申し上げる次第でござ
います。
今後この会館が多数会員の心
の拠りどころとなり、諸会合に
御利用いただくと共に、母校に
学ぶ生徒諸君の学習、クラブ活
動等、教育上に御利用いただ
き、又地域社会に御利用いただ
いて、地方文化に貢献すること
が出来ますよう、御願いたし
ます。
原稿募集
各期会合並びに各支部の催し
については必ず御報告下さい。

御挨拶

校長 清水次郎

同窓生の皆様、立派な同窓会館をおたてくださいました。まことに有難うございました。生徒職員を代表して厚く御礼申し上げます。同窓会館ですのと同窓生の会館ですが、皆様のお許しをえて、もう毎日のように使用させていただいております。生徒も職員もおよろこびです。この会館が落成したお蔭で生徒の急増期をのりこすことができます。いま生徒数は、全日制一、三三〇名、定時制四〇〇名、計一七三〇名にもふくれあがっています。校舎のなかにはあいたところは一つもなく、階段の下まで、生徒のクラブの部屋として使っている状態です。同窓会館の二階のホールは、視聴覚教育、合併授業、学年の集会等に、また一階の食堂は運動部の合宿の際の食堂に利用させてもらっております。この会館ができませんでしたら、生徒のこの急増期をのりこすことはとうていできませんでした。本当に有難うございました。かさねて御礼申し上げます。

なおこの機会に学校の近況を御紹介しあげ、皆様の一層の

ごべんたつと御協力をお願いします。

生徒数は前記の通り全定あわせて一、七三〇名、職員八二名です。皆様も最も関心をおもちになられる大学進学状況ですが、今年度も昨年にひきつづき好調です。今年度の分は、まだ全部はわかっておりません。大部分の生徒が(九四%)大学進学希望者です。今年、東大十六名、京大九名、東北大十二名をはじめ早稲田大、慶応大等に相当数合格しております。国立で一番多く合格するのは信州大学ですが、今年度はまだ発表になっておりません。例年一〇〇名前後合格しています。今年度東大など合格者は僅か一六名ですが、それでも県下では一番おこったのです。就職希望者は五〇名未満で、勿論みな相当のところを職をえています。運動部も県下では各部ともみなよくやっています。ハンドボール、ピンポン、庭球の各部は、全国大会でも活躍しました。以上学校の近況を簡単に御紹介しました。

おついで折などおたちより願えれば幸甚です。同窓会館設立にたいし厚く御礼申しあげ筆をおきます。(三九、三、二五)

同窓会館落成記念祝賀行事

一、映画と講演の会

四月二十日 午後二時より
会員の御参加を願う

一、同窓会館観覧日

四月二十五日〜二十六日
当日草月流生花展があります

一、記念品

ソノシート並びに母校の歌のつれづれ草等寄附者全員に贈呈
(寄附者芳名簿等も共に発送する)

同窓会館竣工の祝辞

生徒会長 山浦善樹

本校は明治三十三年長野県上田中学校として発足いたしました。それから、六十年という長い星霜を経て、昭和三十五年五月にはすばらしい盛大な創立六十周年記念式典が挙行されました。この名譽ある六十周年を記念するために六十周年記念事業期成同盟会が同窓会館の建設を計画され、その後多少の停滞はございましたが、係の方々の御尽力により工事は着々と進行し、今年二月にはみごと完成し、古城の門とは対照的にクリーム色をした超近代的なビルディングの美しい姿をお堀に写しております。そして四月からは我々も自

由に使用出来るとうかがっております。

この地域に、これほどすばらしい同窓会館を持っているのは本校のみでしょう。我々は本校生徒たることを誇りとするのもに此の上ない喜びと思っております。そして同窓会員の名に恥じることはないように、心がけたいと思っております。

我々は此の同窓会館を学習にまたクラブ活動等に有意義に活用し、更に未長くより多くの人々に使用していただくためにも此の会館を使用させていただく時には真摯な態度で、細心の注意をはらって使用する決意をしております。此の同窓会館の落成に際しまして、在校生を代表してお礼の言葉を申し上げます。

維持会員の募集

同窓会員一万名以上になると全員に通知を出す
と印刷費二万円、通信費一〇万円、合計一二万円の費用がかかり且つ同窓会館を維持することになると到底現行の同窓会費ではまかないきれない。

そこで勝俣期成同盟会長から維持会員を募集して、新設の同窓会館の世話をしたり、通信連絡文書発行をしたりと提案され、維持会員を募集することに決定した。規約等は五月の同窓会総会で審議決定するが、毎年五百円宛の会費を維持会費として負担して頂くことが決定しているので振替用紙を同封して置きます。

今後、同窓会館その他の文書は維持会員に限り御送り申し上げますので、奮って維持会員になって頂きたく御願いたします。

上田高校同窓 会館の創作

事務局長 高柳 厚

昭和三十三年上田松尾高校野球部が五月北信越五県大会で初優勝し、又八月待望の甲子園大会に初出場、前年優勝校の平安高校に勝ち甲子園球場のメインマストに高々と校旗をあげて貰い、校歌が満場に流れ渡った感激は忘れられない。

この成果を得た蔭には当時野球部長をしていた筆者の資金集めと、名監督木村頌一氏の六年間に亘る努力とが実を結んだものと言っても大した過言ではない。

昭和三十二年羽生功氏が長野北校より着任されて北信越大会にも、甲子園大会にも、又静岡で開かれた国民体育大会にも、御一緒したので色々お話する機会も多く、昭和三十五年には創立六十周年になるので何か記念事業を考えておきましょうというので、第一に上田松尾高等学校では若し新しい私立高校でも出来て上田高等学校という名称でもつけられて県外では上田松尾高校の方が私立で、上田高校の方が昔からの県立であらうなどと間違えられるおそれが充

分あるから早速上田高校の名称を獲得しておく必要がある。幸い羽生校長は長野北高校を長野高校に、又飯田高松高校を飯田高校に改称した校長であるので上田松尾高校も上田高校に改称したいと話した所、大いに賛成して呉れ、自分もそう思って居った。側面からうまくその気運を盛り立てて呉れということに改称の相談がまとまったのが北信越五県大会の福井の旅館の一室であった。

野球部も甲子園出場を機に後援会長柳沢文秋氏が退き、木村監督が飯田高校へ転任されたので筆者も野球部長を退き、母校創立六十周年記念事業の方へ専念する事となった。

昭和三十三年の五月学校校門前の営林署が上田市の幹旋によって花園地区に移転し、営林署跡の敷地を上田市が払下げを受けたというのを聞き込んだので、其の敷地を上田市から又払下げ貰った。そこでその土地に同窓会館を建設して六十周年の記念事業とすれば最も適当ではないかという構想で関係者に呼びかけたところ殆んど全部の人々の賛成を得たので昭和三十三年十月九日公園内「富貴」の理事会で会館建設が協議され、六十周年記念事業期成同盟会の

組織大綱とトップ役員が顔をぶれが決った。明治三十三年が西暦(一九〇〇年)、昭和三十五年(一九六〇年)で上田中学が長野中学から独立したのが明治三十三年であるので昭和三十五年が丁度創立六十周年となるわけである。

六十年間に約一万二千名の卒業生が出て、社会のあらゆる階層に活躍して居るのであるから母校六十周年記念事業で呼びかけた二千百円位の寄附金は何とか集まるであろうという計画を立てた。但しそれには会員の希望して居るような、平たく言えば会員の欲しがするような会員名簿を作って配布することが最もよいと考えて、六十周年記念事業期成同盟会のプランチとして同窓会名簿作成委員会というものをに入れて筆者がその委員長をつとめることにした。

昭和三十四年夏季休暇の宿題として全校生徒職員にお願いして一人十名宛、何でも自分に最も近い上中卒業生の氏名、本籍地、現住所、最終卒業学校、勤務先、電話番号等を記入する一定用紙を配布して、十名が良いから確実に調査して提出して呉れと依頼して大体の資料を集めた。そのあと不明なものを回数別に全部書き出してプリントし

て各代表者に依頼して大体の資料を作った。それでも分らない者は誰にきけば分りそうだといい事を記入して貰って電話をかけたかたり直接出掛けて行ったりして調査をした。職員四名で約一年半かゝった。同窓会の基本金は五万円足らずしかないのに四名の手当を出す所がないのでこの一年半の間に七十五万円程立て替え払いをしたのである。この名簿は何としても募金のためには最も必要な餌であるので金と労力を惜しみなく注ぎ込んだ。名簿作成の費用に二百万円余りかけたのが今回の六十周年記念事業の成功した原動力だと思っている。

すべて事業は創作である。今回の事業も関係各位の創作と考えてよいと思う。二千五百万円の予定が三千六百万円余の金が集まり物価の騰貴にも拘らず初期の計画を上まわるような立派な会館が出来たことは全く夢のようである。上田高校同窓会館も全く夢の創作である。

○〃 三三・一二・一〇 期成同盟会役員会初会合。
○〃 三四・四・三〇 水野鼎蔵会長辞任、金子行徳氏理事長に就任さる。
○〃 三四・一一・一 同窓会を社団法人とすることの申請。三五・三・二二 文部大臣より許可された。
○〃 三五・四・一六 社団法人上田高等学校同窓会設立登記完了届提出。
○〃 三五・四・二一 国税庁長官に対し寄附金に対する免税認可申請。三五・六・一〇 右認可さる。
○〃 三五・三・三一 上田市より敷地旧営林署跡を一六五万円にて買受。
○〃 三五・一一・二六 六十周年記念同窓会名簿一万二千部発行、費用二百万円余。
○〃 三九・二・一五 同窓会館竣工、東信土建KK

同窓会日誌抜萃

○昭和三三・一〇・九(木) 富貴に於て理事会 この会で六十周年記念事業期成同盟会結成
○〃 三三・一二・三(水) 理

○小山敬三氏より二〇号浅間山の油絵寄贈あり。
○掛川幾三郎氏より看板寄贈。
○尾沢正毅氏より彫塑(日展出品作)寄贈があった。
○若林万良氏より時計寄贈。

○〃 三三・一二・一〇 期成同盟会役員会初会合。
○〃 三四・四・三〇 水野鼎蔵会長辞任、金子行徳氏理事長に就任さる。
○〃 三四・一一・一 同窓会を社団法人とすることの申請。三五・三・二二 文部大臣より許可された。
○〃 三五・四・一六 社団法人上田高等学校同窓会設立登記完了届提出。
○〃 三五・四・二一 国税庁長官に対し寄附金に対する免税認可申請。三五・六・一〇 右認可さる。
○〃 三五・三・三一 上田市より敷地旧営林署跡を一六五万円にて買受。
○〃 三五・一一・二六 六十周年記念同窓会名簿一万二千部発行、費用二百万円余。
○〃 三九・二・一五 同窓会館竣工、東信土建KK

○小山敬三氏より二〇号浅間山の油絵寄贈あり。
○掛川幾三郎氏より看板寄贈。
○尾沢正毅氏より彫塑(日展出品作)寄贈があった。
○若林万良氏より時計寄贈。

母校運動班だより

◇野球部だより

伝統ある野球部はこゝ数年沈滞を続けてきた。その上昨年夏の大会終了とともに六人の選手を卒業させることになり陣容のたて直しのため懸命に冬期もボールを握り通してきた。昨夏の大会を顧みると大事な一戦に大敗を喫し、無念の涙のむのは根性の欠陥であったと痛感し、

本年はこの精神の立直しに力を入れた。本年のチームは昨年のような華麗さはみられないが、ボールを正面でとる地味なプレーに徹し、一戦一戦真剣にぶつかっていきたいと思っている。昨秋からの練習試合成績は十七勝三敗一引分で長野高とは二戦二勝し、また昨秋の北信地区の優勝校の埴生高とは二戦二勝といった有望のチームになろうとある。

三月には近來にない東京遠征もきまり、早実そして選抜大会の全国の補欠高校正学園校等五校と闘ってくるようになっていく。

部員数僅か十一人はさびしい限りであったが、新一年生入部の六人がすべて一七〇種以上の

体力に恵まれた者が入部してくれたことは近頃のない充実感がうかがえる。これらの選手の成長こそ一大飛躍を遂げる時であると期待している。絶大なるご支援によりこの恵まれた体力ある選手に期待を寄せて欲しい。

監督 松野正人記

◇ハンドボールだより

今年度当上田市で全国大会が開催され、各都道府県代表の高校男女チームが来る八月二日より八月七日までの六日間上田市宮競技場及び市宮球場に於て全国高校ハンドボール選手権大会を行うことに決定し着々とその準備が進められている。

今年度は三年生二名を送り出したのみで、新チームも良くまといが二月行われた県総合室内選手権大会にもこのチームが一般チームをも破って優勝している上に今年度は地元にてインターハイが開催されることでもあり、何とか立派な成績をあげたいものと一同張切って猛練習をしているので大いに期待されている。

顧問 中島 恒夫

◇サッカー班の抱負

国民体育大会が六月になったのでそれに合わせて三月に合宿し多数先輩の指導のもとに猛練習をしたのである。わが班は国体中心をおいている。去年の国体県予選においては、決勝戦で県ヶ丘高校に敗れた。期待していた方々にほんとは申し訳なく思っています。

毎年今年こそと思いつながら成果をあげることができないが今年にはメンバーも揃っているので大いに活躍したいと思っています。合宿中は新装なった同窓会館の食堂をつかわせていただいたいへんありがたく思っています。その御恩に報いるためにも今年頑張るつもりです。

顧問 上野隆雄記

◇陸上競技部

この部も他の部と同様、部員の少ない悩みはあるが、ハンマーの県下第一の北住、短距離の羽田、ハードルの成沢を含む三年生六名、棒高飛では県大会で一、二位を独占しようとならっている石沢、北沢、ハードルの山崎等を含む二年生五名を中心にすでに入部した新入生を含め

練習に励んで居り、三月末に行った合宿では日中の投擲練習は危険とばかり毎朝五時四〇分起床、六時から九時まで牛乳とパンをかじりながら一日一二〇本の練習目標のうちこの朝の間に七〇本以上投げおけるハンマーのグループ、夕闇のせまるころまで頑張っている棒高飛グループ等々、人員こそ少ないが県大会には総合優勝をねらい、八月上旬の全国インターハイ(大阪)には一人でも多く出場しようとする顧問、部員一体となってトレーニングに励んでいる。

顧問 松田 克治

◇体操班だより

本校に体操班が誕生してから十有余年になり、その間幾多の傑出した名選手を輩出したことは皆既に御承知の所でありま

す。さて現在の我が班の実状を見ますと、昨年は三年生一、二年生二、一年生二、合計五名と云う弱体ぶりです。部員不足は各班の最大の悩みとなつて居りますが、特に「体操」の場合は他に比類なき地味なスポーツだけに一層その感を深くしている。毎日毎日物言わぬ器械を相手に自己との対決あるのみ……そして三か年間の労苦を共にし

た卒業生が、その根性とガンバで、難関と云われる大学に進み、再び体操に熱中する姿を見るとき、本人の努力は無論のこと有形無形の激励を多くの先輩諸兄から頂いての結果と感謝致して居ります。先輩の残した足跡の大きさに、愈々班員一致団結し、新入生に多数の入班者を期待し、未来に夢と希望を持って昔日の隆盛ぶりを再現したいものと念じつつ……。

(顧問 倉島 安隆)

同窓会賞受賞者

同窓会では昭和二十八年より毎年、卒業式の当日に、学業成績人物共に優秀、生徒会活動、クラブ活動に貢献した者に同窓会賞を授与することになっている。本年の同窓会賞受賞者は次の通りである。

- 栗山 正雄(市内北大手町)
- 田村左千男(北御牧)
- 松山 武(市内上房山)
- 塩沢 邦興(立科町)
- 中野 敬三(市内川原柳町)
- 大橋 民男(坂城町)
- 清水 輝夫(望月町)
- 井出 千治(川上村)
- 小林 史典(佐久市)
- 伊藤 繁(市内新田)
- 小林 健一(青木村)